

氏名	岡 浩介
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博 甲第 5804 号
学位授与の日付	平成30年9月27日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科 社会環境生命科学専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文題目	Clinical Characteristics of Febrile Outpatients: Possible Involvement of Thyroid Dysfunction in Febrile Tachycardia (外来発熱患者の臨床的特徴に関する研究：甲状腺機能の熱性頻脈への関与)
論文審査委員	教授 和田 淳 教授 光延文裕 准教授 土井原博義

### 学位論文内容の要旨

発熱患者の診断にはしばしば苦慮する。不明熱患者の外来診療を円滑に行うために腋窩体温 37.5℃以上の外来発熱患者 148 人において、その成因別に細菌感染・ウイルス感染・非特異的炎症・悪性腫瘍・膠原病・薬剤性・原因不明群に分類し、体温変動に注目して臨床マーカーとの関連について解析した。

まず初診時の体温と経過中の最高体温を比較したところ、悪性腫瘍群を除く全ての疾患群において経過中の最高体温は初診時の体温と比して有意に高値となった。特に膠原病群においては、体温差が、1.5℃と最も大きく乖離していた。経過中の最高体温は脈拍数および血清 CRP 値と正の相関を示し、血清ナトリウム値と負の相関を示した。さらに、経過中の最高体温は血清 TSH 値および TSH/FT4 比と負の相関を示すことが明らかとなった。

遷延する発熱患者を診察する際に一時的に解熱を認めることがあるが、体温変動の大きさに注目することは発熱疾患の診断に有用である。また発熱患者における頻脈に関して、潜在性の甲状腺中毒症が頻脈の発生に関与している可能性が初めて示された。

### 論文審査結果の要旨

不明熱患者の成因は細菌感染・ウイルス感染・非特異的炎症・悪性腫瘍・膠原病・薬剤性・原因不明など多岐にわたり、その診断が困難であることもしばしばである。本研究では外来発熱患者 148 人の体温変動に着目し、種々の臨床マーカーとの関連を後ろ向きに検討した。

初診時体温と最高体温の比較では、膠原病群は有意差をもって最高体温が高く、逆に悪性腫瘍ではその間に有意差を認めなかった。患者測定による経過中の最高体温が脈拍数および血清 CRP 値と正の相関を呈し、血清ナトリウムと負の相関を示した。さらに最高体温は血清 TSH 値、TSH/FT4 値と負の相関を呈した。発熱患者における頻脈に潜在性甲状腺中毒症が関与していること可能性を初めて示した。

委員からは、最高体温は患者申告なのでより客観的な測定法はあるのか、解熱薬の内服などの交絡因子はないのか、甲状腺中毒症の存在を客観的に示すデータはあるのか、との指摘があった。本研究者は今後のさらなる前向き研究での留意すべき点として、研究デザインや測定項目などを具体的な例を上げて回答した。

本研究は、発熱患者において最高体温が不明熱の鑑別診断に有用であることを見出し、さらに発熱時の頻脈の病態に甲状腺中毒症が関与していることを示唆したことから、重要な知見を得たものとして価値ある業績と認める。

よって本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。